

六味丸が有効であった二症例

米澤 理可 先生

富山大学医学部 和漢診療学講座

1997年 京都府立大学 生活科学部 食物学科 卒業
 2003年 大分医科大学 医学部 卒業
 2003年 富山医科薬科大学 産科婦人科学教室 入局
 2012年 富山大学大学院医学薬学教育部(東西統合医学専攻) 博士課程修了(医学博士)
 産婦人科医として、富山大学附属病院、高岡市民病院、済生会富山病院、
 飯山赤十字病院、糸魚川総合病院、射水市民病院、厚生連高岡病院に勤務
 2024年 富山大学附属病院 和漢診療科

はじめに

「足底のほてり」は、生命に関わる有害な状況ではないものの、睡眠の妨げになるなど、日常生活に多少なりとも支障をきたしている場合がある。足底のほてりは、患者が訴えない限り見落とされがちな症状だが、漢方治療においては症状改善の糸口となることがある。

症例1

症 例：53歳 女性。

主 訴：不眠、ホットフラッシュ。

現病歴：10年前から特に夜間の足底のほてりがあり、毎晩4～5回の中途覚醒に悩まされていた。2年前に閉経し、ホットフラッシュも出現し、かかりつけの産婦人科にて種々の漢方薬が処方されたが無効で、X年9月に紹介受診となった。

身体所見／東洋医学的所見：図1に示す。

臨床経過(図2)：東洋医学的所見と足底のほてりから六味丸を選択した。3週間後には足底のほてりは改善し、夜間の中途覚醒の減少とそれに伴う夜間尿も1回へ減少した。2ヵ月後、足のほてりはほぼ改善、ホットフラッシュの頻度も減少し、夜中に目が覚めにくいとのことであった。4ヵ月後には足のほてりは残るものの困っていないとのことで、継続治療の希望で現在に至っている。

図1 症例1 53歳 女性

主 訴

不眠、ホットフラッシュ。

合併症

骨粗鬆症。

身体所見

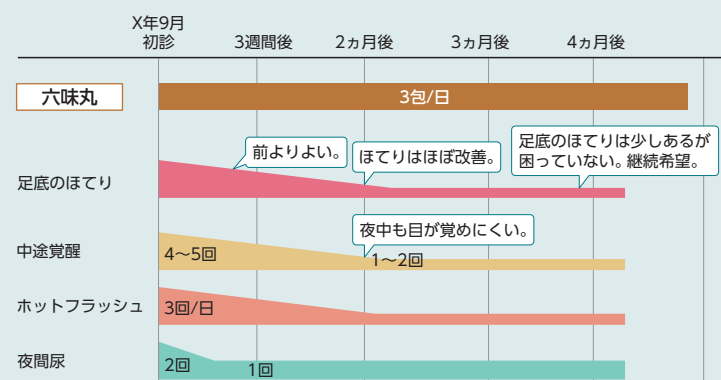
身長 152.0cm、体重 51.0kg (BMI 22.1)、血圧 142/90mmHg、脈拍 96回/分

東洋医学的所見

暑がり、顔のほてり、**足底のほてり**、冷水も好むが湯茶も好む、口渇なし、顔と手掌足底に汗をかきやすい、排尿回数：6～7回/日(夜間1～2回)、排便：軟便、毎日、**視力低下**、脱毛、物忘れ、中途覚醒あり。
 舌候：暗赤色、乾湿中等度の薄い白黄苔、腫大(－)、歯痕(－)、**舌深静脈怒張(＋)**
 脈候：沈、小、やや虚、やや緩、滑渋中間、数遅中間
 腹候：腹力3/5、腹直筋痙攣急(－)、鼓音(＋)、心下痞鞭(－)、胸脇苦満(－)、振水音(－)、臍上悸(＋)、臍傍悸(＋)、**小腹不仁(＋)**、正中芯(－)、**右臍傍圧痛(＋)**、腹部の冷感(－)
 四肢：足首の冷感、下肢浮腫(－)、**下肢細絡(＋)**、乾燥あり

太陰病期、虚実中間証、**瘀血**、**腎虚(足底のほてり、夜間尿)**⇒六味丸

図2 臨床経過



症例2

症 例：40歳 女性。

主 訴：挙児希望(0経妊0経産)。

現病歴：X年8月、挙児希望のため前医(高度生殖医療専門クリニック)を受診、精査にて卵巣機能低下以外は異常を認めない。人工授精(1回)で妊娠に至らず、体外受精胚移植の方針となり、妊娠サポート目的にX年9月に紹介受診となった。

身体所見／東洋医学的所見：図3に示す。

臨床経過(図4)：初診時、大建中湯と当帰芍薬散の処方では便秘は速やかに改善した。その間2回の採卵で合計3つ胚凍結することができたが、3回目の採卵の際は胚の成長不良のため1つも凍結ができなかったことからX+1年5月に証の再考を行った。

足底のほてりに注目し、六味丸に変更したところ、速やかに足底のほてりが消失し、さらに新鮮胚移植を試みたところ、2回目の移植で妊娠が成立した。

考 察

六味丸の出典は『小児薬証直訣』であり、小児の腎虚による様々な発達不良を治す処方とされている。腎陰虚では腎陰が不足することで相対的に腎の陽気が過剰となり、足のほてりが生じると考えられている。六味丸は八味地黄丸から桂皮と附子を除いた処方であり、現代では小児に限らず加齢に伴う腎陰虚の症状に対しても使用する場面がある。

症例1は足底のほてりが不眠の原因となっていたと考え、腎虚に注目し六味丸を選択したところ、足底のほてりの減少とともに中途覚醒が

減少し、日常生活に差し支えない程度となった。

症例2は便秘に対しては大建中湯が有効だったが、当初は優先していなかった腎虚の所見に注目することで、速やかにほてりが消失し、妊娠も成立した。

手掌、足底のほてりに用いられる処方の鑑別について、手・足のほてりには三物黄芩湯や小柴胡湯、小建中湯などを、手掌のほてりが目立つ場合は温経湯、足底のほてりが目立つ場合は六味丸が適すると考えられている。

図3 症例2 40歳 女性

主 訴

挙児希望 0経妊0経産。

合併症

双極性障害。

身体所見

身長 168.0cm、体重 62.0kg (BMI 22.0)。

東洋医学的所見

寒がり、足首・二の腕・お腹が冷える、**足底がほてる**、口渴あり、寝汗をかく、
排尿回数：6回/日(夜間0~1回) 排便：便秘傾向、眠りが浅い、腹が張りやすい、
月経量少ない、**爪がもろい**、むくみやすい。

舌候：暗赤色、腫大(+)、歯痕(-)、乾湿中等度の薄い白苔、**舌深静脈怒張(+)**

脈候：浮沈中間、大小中間、虚実中間、緩緊中間、滑洪中間、数遅中間

腹候：腹力3/5、腹直筋痙攣急(-)、心下痞鞭(-)、胸脇苦満(-)、振水音(-)、

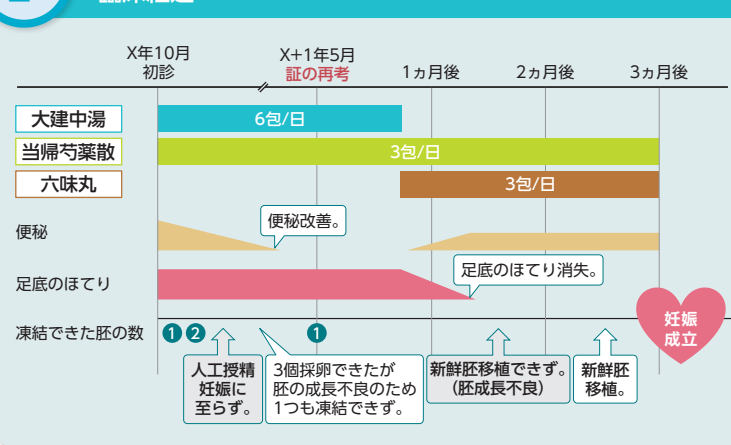
臍上悸(-)、臍傍悸(-)、**右臍傍圧痛(+)**、**小腹痛圧痛(+)**、**小腹不仁(+)**、

腹部全体温かい、鼓音(-)

四肢：足首の冷感(+)、足底温かい、手掌温かい

太陰病期、虚実中間証、**血虚**、**瘀血**、水滯、**腎虚**→当帰芍薬散+六味丸

図4 臨床経過



Discussion

木村：手足のほてりには「五心煩熱」に用いられる加味逍遙散や清心蓮子飲も鑑別に挙げられますがいかがでしょうか。

米澤：いずれの症例とも腎虚の症状が強かったので地黄が必要と考えました。

木村：五心煩熱に用いる十全大補湯との鑑別も必要になると思います。

米澤：十全大補湯は駆瘀血作用が弱く、特に症例2は瘀血がしっかりあったことと、気虚の所見が乏しかったということもあり、十全大補湯は選択しませんでした。

木村：足首の冷えがあると八味地黄丸との鑑別も考えますが、いかがでしょうか。

米澤：足の裏はむしろ温かかったので、附子を含まない六味丸を選択しました。

木村：不妊症をはじめ女性の更年期などへの六味丸の活用のポイントを教えてください。

米澤：腎は、成長発育や生殖、老化のすべてを支える、ホルモンの中枢と考えられているので、ホルモンの関連症状に使用できると思います。